

九州共立大学
大学院（スポーツ学研究科）

2023 年度

カリキュラムマップ

基礎科目 ・ 共通科目

専攻科目 ・ 修了研究科目

<p>学是 (学則第2条)</p>				<p>大学院は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>大学院 スポーツ学研究科の 人材養成及び教育研究上の目的等 (学則第6条・第7条)</p>				<p>スポーツ学研究科は、高い専門性と実践力を持ち、地域社会ひいては世界のスポーツ振興に貢献できる人材を育成することを目的とする。スポーツ学専攻は、広範なスポーツ学の専門的知識を自身の専門分野に合わせて体系化することができ、自らの探求心を基に構築された理論的な指導法および高い実践力を有する高度専門的職業人を養成することを目的とする。</p>				
<p>修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>				<p>スポーツ学研究科は、スポーツ指導・健康づくり分野での多様な知識を身につけ、広範なスポーツ学の専門的知識を自身の専門分野に合わせて体系化することができ、自らの探求心を基に構築された理論的な指導法および高い実践力を有する高度専門的職業人を養成することを目指す。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に修了を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性・倫理性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>				<p>スポーツ学研究科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、基礎科目、共通科目、専攻科目、修了研究科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ教育領域、コーチング領域、スポーツ栄養・健康領域、アスレティックトレーニング領域の4領域で構成し、課題探求能力と課題解決能力を身につけるよう系統的に科目を配置する。 2. 専攻科目では4領域とも「特論」とそれに対応する「スポーツ学フィールド演習」科目を置く。「特論」と「スポーツ学フィールド演習」の組み合わせ履修により、高度な専門的知識を修得させるとともに高度な実践的指導力の形成を図る。 3. 1年次にスポーツ学の研究方法、手順を学ばせる「スポーツ学研究概論」(基礎科目)を配置する。修了研究科目として「修了研究I」(1年次)、「修了研究II」(2年次)を配置し、文献や議論等を通して学んだ知識や、修得した知識や技能等を生かし、担当教員の指導のもと自らの領域における研究テーマを設定し修士論文を完成させる。これらの科目を通して、高い専門性と高度な実践的指導力を有し、「課題探求能力」、「課題解決能力」を有した人材を育成する。 <p>【教育方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、演習科目はアクティブラーニング形式を取り入れ、双方向型の授業を実施し、主体的な課題探求、解決能力を育成する。2. 「特論」と「スポーツ学フィールド演習」の組み合わせにおいては現場の課題を抽出し、自らの課題を主体的に探求し、解決する能力を身につけさせる。そのため、授業時間外においても学生と密接に関わり、個別指導を実施する。 <p>【教育評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 2年間の学修成果は、修了研究(必修)によって行い、総合的に評価する。 				
<p>大学院 スポーツ学研究科のカリキュラム</p>				<p>修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係【◎特に関係する ○関係する】</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学生より適用
基礎科目	スポーツ学研究概論	修士1年生	前	スポーツに関する研究論文の種類や構成などを理解するとともに、研究倫理について学ぶ。研究に必要な文献検索、実験、調査、データ処理の手法を修得し、各自の研究テーマに展開させることのできる能力を養う。また、研究レポートおよび論文作成、発表方法の基礎を作りあげる。各研究指導教員の専門分野に応じた内容を盛り込みながら教授する。	①研究倫理を理解し、実践できる。 ②スポーツ学研究に関する文献検索、実験、調査、データ処理の基本を体得できる。 ③基礎的な研究レポートの作成と発表ができる。	○	◎	○
共通科目	スポーツ科学特論	修士1年生	前	人は、食物から得た生理的エネルギーによって筋収縮を起こし、身体運動の力学的エネルギーに変換している。それに関わる身体器器官の滑らかな調節と連携により、スポーツ運動は遂行される。本講義では、力学・生理学・解剖学等の基礎諸科学の知識の上に、スポーツ生理・バイオメカニクス of 法則を学び、スポーツ運動のメカニズムを総合的に理解する。本講義では、有酸素・無酸素的なエネルギーの入力とパワーの発揮について実習を交えて解説する。後半では、スポーツ運動の効率的遂行に重要なバイオメトリックスを題材に、スポーツ科学の歴史、応用、発展について学ぶ。	本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理・バイオメカニクスのなはたらきや変化、トレーニング効果について、記述して説明することができる。	◎	○	○

共通科目	スポーツ運動・方法学特論	修士1年生	前	実践指導の経験を踏まえ、意識と感覚に焦点をあてた運動学の観点から運動指導の実践知について考えてゆく。運動を学習する能力、教える能力としての「身体知」のカテゴリーについて詳細を学習してゆく。	・運動的な促発指導の独自性について事例をあげて説明することができる。 ・運動学な創発身体知について事例をあげて説明することができる。・身体知の諸カテゴリーについて実際の経験を事例を引き合いに出して説明することができる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ心理学特論	修士1年生	前	本講義では大きく以下の8つの領域を設定し、受講者のスポーツ実践や指導に活かせるよう学習を進めていきます。1.スポーツ運動の発達、2.スポーツ技能の学習、3.スポーツの動機づけ、4.スポーツの社会心理、5.競技の実践心理、6.スポーツメンタルトレーニング、7.健康スポーツの心理、8.スポーツ臨床。これらの内容について、最新の知見や実践例などを紹介しながら、理解を深めていくことを目指します。	1.スポーツ技能の学習について、学習理論や発達の観点から具体的に説明できる。2.動機づけ理論について理解し、具体例をあげて説明することができる。3.スポーツ集団と個人の関わりについて理解し、リーダーシップの機能について説明できる。4.競技における心理的コンディショニングの方法を知り、実践や指導に役立てる事ができる。5.スポーツ運動が健康の維持・増進にどのような心理的効果があるか説明ができる。6.スポーツ場面特有の心理的特徴について、臨床学的視点から捉えることができる。	◎	○	
共通科目	スポーツマネジメント特論	修士1年生	後	学校や地域社会、民間スポーツ・フィットネスクラブ、及びプロスポーツ組織等におけるスポーツの文化的普及に必要な経営学の基礎理論を学習し、体育・スポーツ経営の実践能力の基盤となる専門的知識について学習する。特に、学校や地域社会における体育・スポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めると同時に、効果的・効率的な生涯スポーツの振興を図るための経営過程論についても理解する。	①体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる ②体育・スポーツマネジメントとはどんな学問なのかを説明できる ③体育・スポーツマネジメントとはどのような場面で役に立つのかを判断できる ④体育・スポーツ事業に関する知識と技術を説明でき、そうした知識と技術を活かした体育・スポーツ経営を実践できる ⑤学校の体育経営や地域スポーツ経営民間スポーツ・フィットネスクラブ経営、及びプロスポーツ経営などの分野に寄与できる	◎	○	○
共通科目	スポーツ科学分析特論	修士1年生	後	競技パフォーマンスの向上を目指した体力・運動能力に関する基礎的および先端的な科学研究の方法を理解し、修得する。	体育・スポーツ分野で必要な測定分析方法と評価方法を実践する。体力学領域における知識、研究対象の設定方法、研究方法、測定分析方法、評価方法を理解できる。			
共通科目	スポーツ社会学特論	修士1年生	後	本講義では現代スポーツに関わる多様なトピックの事象と私たちが暮らす社会との関係性について批判的に検討することにより、現代的ニーズである生涯スポーツ・地域スポーツの充実や未来志向的なスポーツの発展に資する学問的基盤を構築する。	①スポーツに関する事象について、社会学的視点で批判的に捉えることができる。②スポーツを社会学的視点で捉えることで、未来志向的なスポーツ観を持つことができる。③スポーツと社会の関わりについて、自分の考えを整理し、伝え、議論することができる。	◎	○	○
共通科目	トレーニング科学特論	修士1年生	後	トレーニング科学に関する国内外の文献から、運動のメカニズム、トレーニングの効果(形態的、機能的、生理的変化等)についての知識を獲得することを旨とする。トレーニング方法の歴史の変遷や問題点に関する理解が深まるようにする。	伝統的なトレーニング方法や、新たに提案されたトレーニング方法について理解し、その効果を科学的な知見や手法により見極めるとともに、自ら実践、教唆できる能力を身につける。		◎	
共通科目	スポーツ栄養学特論	修士1年生	前	前半は栄養素の働きを生化学的に学び、またスポーツに係わる各種の栄養ガイドラインについて理解を深める。さらにこれらの知識を栄養指導に活かす方法を検討する。栄養の専門家を目指すわけではないが、スポーツ現場で簡単な栄養指導が適切にでき、栄養士と連携する際に不都合のない知識、技術を有することを目的とする。	各栄養素について正しくプレゼンテーションできる。栄養については個人差が大きいことを理解できる。個人差が大きいことを理解したうえで、各種ガイドライン等に沿った基本から外れない栄養指導ができる。	◎	○	
共通科目	健康・長寿特論	修士1年生	前	現代に生きる私たち自身の健康をどのように捉えるのかを考え、生活の質の向上を通して健康長寿の延伸へ貢献する知識を身につける。また、地域社会における健康問題に対して、これらの知識を基盤とし、その理解を応用させることで、健康・長寿の施策に繋げ、望ましい健康を作り出すにはどうすべきかを各自が考えていく。	多様な視点から健康について理解する知識を身につける。様々なデータから地域の健康に関する状況を客観的に考察できる。健康問題に対応する政策を立案することができる。健康施策の実施に対する結果を客観的に評価できる。	◎	○	
専攻科目	保健体育科教育学特論	修士1年生	前	授業実践等フィールドを対象とした研究を行うために、特に、体育科、保健体育科に関連した研究の目的や機能、方法や内容を理解し、展開できるようにすることを目的としている。具体的には、研究に必要な方法の理解や体得等の手続きの理解を主に、実践研究に至るまでの考え方について、言及することをねらいとしている。また、体育とは何を教える教科なのか、そのことをおさえて、その何を具体的に享受するための方法や内容についての理解を深め、授業づくりの知識を修得する。そのために指導計画の立案等、授業づくりの全体像について理解し、さらに踏み込んで、教材を作る上で必要な視点や具体的な知識や内容との関連を理解する。	1 授業実践等フィールドを対象とした研究に必要な研究の考え方や研究方法を理解し、展開できるようにする。2 体育授業を実現するための実践的指導力を高める知見修得をめざす。3 教材開発を含めた体育授業の設計能力、授業の組織運営にかかわるマネジメント能力、運動学習を活性化させる教授技術などの知見を修得する。	◎	○	○
専攻科目	健康教育学特論	修士1年生	後	本科目では、ヘルスプロモーションの定義を基本としたWHO(世界保健機関)の国際的健康戦略からみた健康教育の考え方とその方向性について学ぶ。具体的には、学校、地域、職域、それぞれの分野で健康教育の実務経験がある教員のもと、健康と教育それぞれの意味の再確認にはじまり、健康教育の最終目標とヘルスリテラシーとの関連、目標達成に向けた行動変容理論等について学習する。また、最新の健康情報を入力しこれらを批判的に評価する方法を学ぶ。その上で、学校、地域、職域における現代的健康課題とその解決に向けた健康教育のあり方について議論する。	1. 健康教育、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、それぞれの意味を説明できる 2. 健康に関する最新のエビデンスや現代的課題について複数的手段を使って入手できる 3. 学校、地域、職域における現代的課題について、疫学的根拠を示しながら説明できる 4. 健康行動の変容につながる様々な理論、手法を活かした課題解決法を提案できる 5. 個人のレベルでは解決が容易ではない課題についての対策を提案できる	○	◎	○

専攻科目	発達教育心理学特論	修士1年生	後	スポーツ学研究のための発達心理学と教育心理学について。子どもはどのようにして学習していき、教師(指導者)としてその潜在能力をどのように引き出すかについて。子どもはどのような過程をたどって発達していくかについて。発達の中で若手さがかかえる子どもたちの特徴と支援について。子どもたちのやる気を引き出すにはどうすればよいかについて。子どもたちの能力や性格をどのようにとらえていくかについて。	レポートにおいて図表や用語の内容を理解した上で説明できる。授業内容について、コメントを記述することで自分の理解度を把握できる。指定された文献の内容を要約し、コメントを記述できる。授業内容と自らの教育経験を結びつけ、課題を導き出すことができる。	◎	○	○
専攻科目	武道学特論	修士1年生	後	武道学の特性の一つは「わざ」についての捉え方にある。それは単に、技術の名称や打突、投げ、蹴りなどの運動の主要局面のみを意味するものではなく、準備局面での「合気」「攻め」「崩し」、終末局面での「きめ」「残心」なども含んだ一連の身体的・精神的技術を意味する。さらにその背後には、武道特有の哲学、観念、思想が存在する。授業では、「わざ」の概念及び「わざ」の構成要素等について、上記に述べたような様々な側面から取り上げた文献を手掛かりに講義を行う。	・各種武道の技術体系及びその背景にある歴史、思想に関する専門的な知識を身に付けている。・各種武道に関する専門的な知識を源として、現代的、今日的な武道の在り方を探求していく上での課題探究能力及び課題解決能力を身に付けている。・現代的、今日的な武道の在り方の探究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して課題探究及び解決に取り組むことができる。	◎	○	○
専攻科目	コーチング特論	修士1年生	前	コーチング学が様々な知識を必要とする学際的な分野であることを理解した上で、各運動種目の特性を踏まえて、コーチの役割とコーチングマネジメント、指導行動、運動技術や戦術に関する知識を身に付け、コーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。さらに、コーチングが単に「競技スポーツを教える」ということを意味しているだけでなく、それを中心とした多様な働きを示すことであることを理解するために、我が国のコーチングにおける様々な問題点に着目し、受講生相互の意見交換を含めて議論を展開する。	わが国のコーチングの現状や問題点を理解し「コーチ」の役割を説明することができる。「コーチング」が何を意味するのかを自らの言葉で説明することができる。コーチング実践において専門競技の特性を理解し、指導行動に反映させることができる。コーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。	○	◎	○
専攻科目	ストレNGTH&コンディショニング演習	修士1年生	後	レジスタンストレーニングにおけるプログラムの作成、遂行、評価の一連の過程について測定、トレーニングを実際に経験しながら学ぶことを目指す。	形態計測、体力測定を正確な方法で行い、その結果を評価することができる。身体各部における部位別のトレーニング種目を理解し、実施することができる。クイックリフト3種目を正しいフォームで実施することができる。体力テストの結果に基づいたトレーニングプログラムの作成ができる。			◎
専攻科目	体力科学特論	修士1年生	後	身体活動や体育・スポーツに関連する体力要素は多岐にわたる。本講義ではまず、種々の体力要素と健康やスポーツパフォーマンスとの関係について講義する。また、体力の向上のための理論・手法、エビデンスに基づいた運動処方プログラムの立案の仕方、その評価や効果判定ができる実践能力を身につけるための講義を行う。さらに等速性筋力測定器の使用法を修得し、筋力の評価手法について学修する。	1. 体力に関する概念を説明することができる。2. 体力向上のための理論・手法を提示できる。3. 対象に応じた運動プログラムを処方することができる。4. 体力測定に必要な機器や統計処理ソフト(SPSS)を操作できる。5. 体力の評価、トレーニング効果の評価をすることができる。	○	◎	○
専攻科目	アスレティックトレーニング特論	修士1年生	前	アスレティックトレーニング領域の中からスポーツ外傷・障害の予防、測定評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションに関する研究の意義や各種方法を先行研究から学ぶ。また、得られた知見をスポーツ現場に活用する方法について討議する。	1. スポーツ外傷・障害の予防、測定評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションに関する研究方法を説明することができる。2. 上記1の内容を実践するための基礎知識を身に付けている。	○	◎	○
専攻科目	スポーツ医学特論	修士1年生	前	本科目では、スポーツ現場において見られる様々な外傷、障害、内科的疾患の概要を理解し、それらに対する評価、リハビリ、リハビリテーション、再発予防などについての見識を深める。また、スポーツに関連する怪我や病気の理解する上で必要不可欠な解剖学的知識についても学ぶと共に、症例についての文献抄読・討論を行う。	①スポーツ外傷、障害、及び内科的疾患の概要を理解すると共に、それらに対しての評価、リハビリ、リハビリテーション、再発予防について説明できる。②解剖学的知識を基にスポーツに関連する怪我や病気について説明できる。③スポーツに関連する怪我や病気の症例についての文献抄読・討論を行うことができる。			
専攻科目	機能解剖学特論	修士1年生	後	本講義では、人体の骨、筋肉、関節、靭帯、神経の構造を機能と関連付けて学ぶと共に、スポーツ外傷・障害に伴う身体構造の変化や機能障害についても理解を深める。また、機能解剖学に関連した論文の読解などを通してスポーツ現場にて求められる科学的根拠に基づくアスレティックトレーニングの基本的な考え方を理解する。	①人体の骨、筋肉、関節、靭帯、神経の構造を機能と関連付けて理解し説明することができる。②スポーツ障害・外傷に伴う身体構造の変化や機能障害について理解し説明することができる。③科学的根拠に基づくアスレティックトレーニングの基本的な考え方を説明することができる			
専攻科目	応用アスレティックリハビリテーション演習	修士2年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。各種スポーツ外傷・障害や競技特性を踏まえたうえでアスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、指導する力を養う。実際の指導場面を想定し、様々な状況におけるシミュレーションを実施する。その他、各テーマに沿ったディスカッションも積極的に実施する。	・正しい知識と技術をもとにアスレティックリハビリテーションを指導をすることができる。・適切なデモンストレーションとコミュニケーションを用いて指導をすることができる。・実践に即した応用力や問題解決能力を発揮出来る。	○	◎	○
専攻科目	栄養教育特論	修士1年生	前	行動変容理論、栄養教育の技術の講義で培った内容を基に、栄養教育プログラムの立案を行う。プレゼンテーション、ディスカッションを通じて栄養マネジメントサイクルの理解を深める。【担当:巴、山本】	栄養教育の介入研究に必要な知識、技術を身につける。栄養教育の具体的な計画を立案できる。	◎	○	
専攻科目	栄養教育演習	修士2年生	前	アスリートにとって必要な食事管理を学んだ上で、個々に対応した献立作成、アセスメントの演習を行う。【担当:巴、山本亜、新富】	アスリートの食事管理、アセスメントの実際についての知識、技術を身につける。	◎		

専攻科目	栄養生理・生化学特論	修士2年生	前	栄養生理の観点から消化器系臓器の構造と機能、さらにスポーツ栄養の観点から運動系臓器の構造と機能についての理解を深める。三大栄養素(タンパク質、脂質、糖質)の中でもスポーツ栄養において重要な役割を果たすとされるタンパク質を中心に、その栄養的価値だけでなく、生理機能的価値について説明できるようになることを目標とする。また、多くの疾病や疲労にも関係する炎症について、発症機序と食品による予防について解説する。教員としての基礎栄養学を担当した経験、および食品会社研究所での健康素材の機能性解明研究の経験を踏まえ、機能性素材とその機序について具体例を示しながら進める。	口にした食品が、どのような形で身体の構成、維持、さらには運動機能の向上や疾病のリスク低減につながるかをタンパク質を中心に理解できる。	◎	○	○
専攻科目	スポーツ学フィールド演習	修士1年生	後	本授業科目は、各研究領域における研究成果(理論)と実践の往還を図る上で、必要とされる指導技術の獲得や指導者としての資質向上を目指して演習形式で授業を展開していく。また、新たな研究課題の発見等に資する経験や体験を得るために、各研究領域と関連するフィールドと連携し、フィールド視察及びフィールドでの実践に向けた計画立案からの一連の手続きを経験し、実践に必要な知識と実践力を身につける。【担当:高田、森、長谷川、辰見】	①各研究領域におけるフィールドでの実践内容について理解し、説明できるようになる。②各研究領域におけるフィールドでの実践を可能とする計画立案から実施の段階までの一連の手続きができるようになる。③各研究領域におけるフィールドでの実践に対する種々の管理運営等ができるようになる。	○		◎
修了研究科目	修了研究Ⅰ	修士1年生	通年	体育・スポーツ学において、どのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて学習する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、自らの研究テーマに沿った研究方法について精査し、研究デザインに則った修士論文を作成する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を理解する。また、学会発表等を通してプレゼンテーションのスキルを身につけ、データ整理、分析能力等を養う。	1. 自らの研究課題に関する先行研究を収集し、理解することができる。2. 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。3. 研究テーマ、方法を決定することができる。4. 研究課題を他者に対してプレゼンテーションできる。5. 学会発表等を行うことができる。	○	○	◎
修了研究科目	修了研究Ⅱ	修士2年生	通年	トレーニング科学の分野における問題を発見し、自らの問いを立て、これを明らかにする。自らが立てた問いを解決するためのデータ収集法を検討し、データ収集を行い、取得されたデータに基づいて修士論文の作成を行う。	研究論文の形式やルールを理解し、文章作成ができる能力を身につける。データ解析により得られた結果を図表にまとめる能力を身につける。取得されたデータを正しく理解し、解釈する能力を身につける。			◎
修了研究科目	修了研究Ⅱ	修士2年生	通年	・スポーツ科学の分野における課題を発見し、自らの問いを立て、これを明らかにする。・自らが立てた問いを解決するためのデータ収集法を検討し、その収集を行う。・収集したデータに基づき研究を遂行し、修士論文の作成をならびに研究発表を行う。	・データ解析により得られた結果を図表にまとめる能力を身につける。・得られた結果を正しく理解し、適切に解釈・説明できる能力を身につける。・形式や執筆方法を理解したうえで、研究論文を作成できる能力を身につける。	○	○	◎
修了研究科目	修了研究Ⅱ	修士2年生	前	「スポーツ心理学」領域における研究手法について先行研究を参考にしながら学習する。さらに自らの関心に基づき研究テーマを設定し、当該領域における先行研究をレビューし研究動向を理解する。その上で自らの研究テーマのオリジナリティを確立し、テーマに沿った研究方法を選択し、適切な研究デザインに則って修士論文を作成する。	1. 自らの研究課題に関する先行研究を収集し、理解することができる。2. 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。3. 研究テーマ、方法を決定することができる。4. 研究課題を他者に対してプレゼンテーションできる。5. 修士論文を作成することができる。	○	○	◎
修了研究科目	修了研究Ⅱ	修士2年生	前	「スポーツ教育学」についてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて学習する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する。また、自らの研究テーマに沿った研究方法について精査し、研究デザインに則った修士論文を作成する。	1. 自らの研究課題に関する先行研究を収集し、理解することができる。2. 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。3. 研究テーマ、方法を決定することができる。4. 研究課題を他者に対してプレゼンテーションできる。5. 修士論文を作成することができる。	○	○	◎